

はじめに

ストーリーを上手に使えば、仕事はすべてうまくいく

仕事はストーリーで動かしましょう！

そうすればうまくいくことが多いんです。

ストーリーをうまく活用できるようになると、仕事力は確実にアップします。いわゆる
デキる奴になれます。

もしあなたが人から「あいつはちょっと違うな」と思われたいのなら、仕事にストーリー
を取り入れることをオススメします。他の人とは確実に差がつけられます。それは、営
業力、交渉力、企画力、プレゼン力、コミュニケーション力など、色々な分野で可能で
す。

差別化できるのは「あなた自身」やそのスキルだけではありません。

あなたが売りたいと思う商品にストーリーを加えることによって、平凡だった商品をキラキラと輝かせ魅力的にすることだって可能です。当然、その商品は売れるし、話題になります。

あなたが進めていきたいプロジェクトにもストーリーを導入しましょう。そのストーリーに心動かされる要素があれば、きつと賛同者が現れ、プロジェクトは前進していきます。何よりもあなた自身が、そのプロジェクトを遂行しなければ、という強い使命感を持って行動できます。

会社だってストーリーで動かせます。

まず会社全体のモチベーションがアップします。部下のやる気を高めます。社員同士の絆を深めます。ストーリーがあると、経営者も社員も同じ価値基準を持つようになって、自らが何をすべきかを考えるようになります。

次に得意先や取引先。あなたの会社に優れたストーリーがあると、自然と興味を持ってもらえます。損得を超えた支持を得られるようになります。

そして実際に買ってくれるお客さんに対してはストーリーを伝えましょう。心に響くストーリーがあると、あなたの会社に対するロイヤリティが高まります。むこうが買っているのに、こちらが感謝されるようになります。そんな状況が続くと、今度はマスコミが取り上げてくれるようになります。そう。広報においても、ストーリーは必要不可欠な要素です。

これからの時代は、「ストーリーがない会社には未来がない！」と言い切ってもいいかもしれません。

特に規模が大きくない企業にとって、ストーリーはなくてはならない存在です。もしあなたが経営者ならば、ストーリーを語ることで会社や社員を動かす方法をぜひマスターしてください。会社を大きく成長させていきたいのであれば、経営者はストーリーを語れることが必須条件です。

もちろん、会社がお店になっても同じです。これだけモノがあふれている現在、ストーリーがないお店も生き残れません。

同じことは、大学・高校などの学校にも言えます。少子化で学校余りが鮮明になってくると、ストーリーのない学校はまず生き残っていきません。逆に、今まであまりパツとしなかった学校だって、ストーリーを積み上げていくことでイメージがガラッと変わる可能性もあるのです。

これからは、弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士などの士業にもストーリーが必要となつてくると思います。ただ資格があるだけでは過当競争を生き残れない時代になってきます。いいストーリーを組み立てることができれば、自分から営業して仕事を取るなんて必要はなくなるでしょう。クライアントの方からお願ひされるようになります。

ストーリーは、難しいことをやさしく伝えたいシチュエーションに威力を発揮します。科学、哲学、法律、経済、政治などの分野はストーリーで語るることによって理解しやすくなります。

人に何かを教えるときにもストーリーは有効ですね。学校教育や社員研修などではもつとストーリーの力を応用していくべきでしょう。

また何か教訓や道徳めいたこと伝えたいときには必ずストーリーを使いましょう。説教されるとどうしても反発してしまうようなことでも、ストーリーで語られることによって、相手の心に入り込めるのです。

ネットを利用したビジネスでは、ストーリーをおおいに取り入れましょう。ホームページ、ブログ、メルマガ、セールスレター、すべてにおいてストーリーは売上げ等に大きな影響を与えます。

このようなストーリーの特性をうまく活かせば、新しいビジネスチャンスは色々と転がっているはずですよ。

ストーリーというと、小説家やシナリオライターなどのストーリーづくりの専門家が考えるものだと思いませんか？

確かに、純粹に楽しむ為のエンターテインメントなストーリーをつくり上げるのであれば、それなりの才能、訓練、忍耐が必要となってきます。

しかし、仕事やビジネスで使われる「ストーリー」は違います。視点を変えるコツさえつかめば、誰にでもつくり上げることができるのです。

もちろんストーリーは万能ではありません。使い方を間違えたり、内容が稚拙であれば、逆効果になる場合だってあるかもしれません。だからこそ、この本でストーリーの使い方やつくり方を学んでください。

この本では、仕事やビジネスの色々な場面でのようにストーリーを使えばいいかを、できるだけやさしく解説していききたいと思います。

ストーリーの黄金律である3幕構成にならない、本書も3つのパートに分けました。

第1幕では「理論編」として、なぜ仕事でストーリーを使うとうまくいくのかの理由を書きました。

第2幕では「実例編」として、ビジネスの現場で、どのようにストーリーが使われているかの実例をいくつか示しました。

第3幕では、「実践編」として、ストーリーを使ってどのように仕事を動かしていけばいいかを具体的に説明しました。

最後まで読んでいただければ、仕事やビジネスにおけるストーリーの使い方の方の基本的な部分は、これ一冊でマスターできるようになっているはずです。

あなたが「ストーリー」を使って、仕事やビジネスをうまく動かせるようになることを祈っています。